

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100713		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	下関市汐入町36-6		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町受理日	平成23年7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・ご家族・職員が安全と安心の中で、共に支え合うことを目指して、レベルの差がある9名ですが、さりげなくお互いを助け合い、生き生きした言動や笑顔で過ごしていただく為の優しいケアを心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、自治会長や民生委員が運営推進会議に出席されて、事業所の避難訓練などについての協力の話し合いをされたり、職員も海峡マラソンのボランティアや地域の清掃活動などに参加されるなど地域に存在する事業所としての活動や役割を担い、地域とのつながりを大切にすることに努められています。利用者は法人主催の夏祭りに参加したり、保育園児やボランティアの来訪があるなど交流しておられます。馴染みの人や場との関係の継続や活躍できる場面づくりなどを通して、一人ひとりの関わりを大切にし、利用者がその人らしくいきいきとした生活が送れるよう検討を重ねられ、きめ細かな支援に取り組まれています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義をふまえた理念を作っており理念をホームに掲示している。朝礼時や会議で唱和し合い実践につなげるよう意識して取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、朝礼時や会議で理念を唱和し話し合いをして共有し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件的には近隣の方と気軽にと言うことは難しいが自治会に加入しており、夏祭り、マラソン、地域清掃等地域活動にも参加し、地元の方々との馴染みの関係作りに努めている。	自治会に加入し、職員は地域清掃活動やマラソン大会のボランティア等に参加し地域に密着した事業所としての活動や役割を担うよう努めている。利用者は法人の夏祭りに参加したり、保育園児やボランティアの来訪で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの方々のご意見を頂くとともに認知症を理解、又は支援して行くことの大切さをいつも発信している。、		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	事業所全体で評価を真摯に受け止め、話し合いの場を作り当事業所として出来ることから質の改善と向上に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価の過程で職員にとってはケアの振り返りとなりサービス改善の機会ともなっている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新たに消防署の方にも参加して頂きサービスの実施や評価の報告・取り組みについて話し合いをしており非常時への指導を受けている。	年に6回開催し、非常災害対策訓練についての話し合いや活動内容、利用者の状況、外部評価の報告などについて意見交換し、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課とは蜜に連絡を取りわからない事は指導を受けている。	地域包括支援センターや介護保険課と申請や不明点についての相談や情報交換など連絡を取り合い協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員周知徹底している。玄関の鍵は常時開いておりチャイムが鳴ることで出入りの確認をするよう徹底している。	方針があり、マニュアルで学習をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠はしておらず、利用者が外出する時はさりげなく声かけをして、一緒に出かけるなどの工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び全員で周知している。常にマニュアルを手の届く所に置き日々の業務でも日頃から話題にし、未然防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議などで制度について学ぶ機会があり、権利擁護については現在利用されている方が居られるので、生活支援委員の方からアドバイスを頂いている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて誠意を持って十分に説明を行なう。理解納得して頂けるように、時間を掛けて何度も説明するように心がけている。改定等は家族総会にて説明を行い同意書を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の手順は明文化されている。苦情相談の受付窓口は設置し重要事項説明書にも明示しており、会議等も行っている。	家族会、面会時、電話などで家族の意見、要望を聞き運営に活かしている。相談、苦情の受付体制や外部機関、第三者委員を明示し処理手続きを定めて利用者、家族に周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月報告会・会議を行なっている。職員の意見や提案を議題とし改善に取り組んでいる。	毎月の会議時の意見や提案、日常の意見を取り上げて副主任、主任、課長、管理者へ報告すると共に全職員で話し合いながら運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置して、目標を持って取り組んで行えるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修その段階に応じた研修に参加している。研修で学んだ事は他職員に報告して業務に役立てるように努力している。	外部研修は勤務の一環として段階的に参加する機会を提供し、研修受講者は復命報告をしている。法人研修、事業所の学習会で職員のスキルアップに取り組み、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・市内の研修会にて交流する機会を作り、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い共有する時間を大切にし情報を1つでも多く提供していただき本人主体の馴染みの生活が出来るように努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族の面会を頻繁にさせていただくよう働きかけ、本人のこれまでの家族との関係、生活習慣等情報や不安なこと、要望を聞く場を作るようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活史、趣味、楽しみ等情報の把握に努め、本人を理解し日常生活の中で支援が必要な部分を確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活であるという視点を持ち日常生活において起動哀楽を共に感じ人生の先輩であることを忘れることなく学び合い、支えあえる関係作りに心掛けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況やグループホームでの様子を出来る限り伝え、広報誌や家族会など意見交換出来る場を作っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や地域との交流を図り家族の協力も得て外出する機会を設けている。手紙での交流ある方には関係継続出来るように支援している。	家族の協力を得て面会、外泊、墓参りなどの支援をしている。知人や友人の来訪、手紙のやり取りなどの支援をするなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を認め、相互関係お互いの思いが伝わるような場を作ることを工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて本人、家族の相談、ケアをつたえるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向は面会時などに聞いて把握に努めている。	日々の関わりの中で利用者に寄り添い声かけをして希望や意向の把握をしたり、家族から情報を得るように努め生活日誌やケース記録、連絡ノートに記載して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用していた施設や在宅のケアマネからアセスメントをして情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日の生活リズムに添って、バイタルチェックなどで健康管理をしてその方の出来る範囲で、レク活動や家事参加を促している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議を全員で行っている。面会や電話で家族とも話し合い現状にあった介護計画作成に努めている。	利用者や家族の意見をもとに、かかりつけ医、看護師の意見を参考にし本人のケアのあり方について全職員で検討して、介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は毎日書いていつでも見れるようにしています。又連絡ノートを作成しており職員間で情報を共有して変化のあった時には見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの利用者について、その独自の生活歴個性や希望、現在の心身状態を把握しその人らしく暮らしていくための現時点での課題を介護計画に取り入れて支援する事を努める。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りなど大きな行事の時にはボランティアを利用して。又2ヶ月に1回ビューティヘルパーを利用。同じ事業所内の保育園児との交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族からの依頼もあり、掛かりつけ医をグループ内の医療機関とし受診結果をご家族に報告している。時にはご家族も同席されることもあり、他科についてはご家族にお願いしている。	事業所の協力医療機関の他、希望に応じての病院への受診を家族の協力を得て支援している。協力医、家族、職員は受診結果に関する情報の共有を通して、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の馴染みの看護師が来設されるので常に些細なことでも話している。助言を受けて利用者の健康管理の支援を行なっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換やカンファレンスなど行いダメージを防ぐようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から本人や家族の気持ちを大切にしながら主治医の意見をもとに看護師、職員全体で話し合いを繰り返している。方針を共有し安心と安全を確保できるよう支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合には家族、医師、関係者と段階に応じて話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルや研修に参加することで知識を学び防止策について共有している。ヒヤリハットの報告や気づきをもとに一人ひとりの状態にあった安全を確保し再発防止に努めている。医療連携の看護師より指導を受けた消防署の指導をうけている。	事故防止マニュアルを作成して勉強会を実施すると共にヒヤリはっと・事故報告書の検討をして、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。緊急時の対応については、看護師、消防署員の指導を受けている。応急手当や初期対応の定期的訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	慌てず避難誘導できるよう訓練はおこなっている。運営推進会議の中で地域の方に協力をお願いしている。	消防署の訓練(消火・避難訓練)を実施している。事業所独自に避難訓練を3回実施して隣接のケアハウスと連携体制があり、地域との協力体制は検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しプライバシーの保護を全職員が徹底厳守して記録等個人情報とは他者の目につかない所に保管して鍵をして開けられないように直している。	全職員が一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分意思表示ができない時は表現行動での反応を見ながら観察し、側に寄り添い、話にしっかり耳を傾け、自分で意思表示できるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や行動に左右することなくその人らしい一日の過ごし方を理解本人のペースに沿って生活支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせ行きつけの美容院に行ったりビューティヘルパーに来て頂きその人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく思えるように夕食を一緒に作ったり手作りのおやつを考えたりし喜びや楽しみを持っていただくように支援している。	朝食、夕食、おやつ作りを一緒にしている。野菜の下ごしらえ、盛り付け、片づけ、茶碗洗いなど利用者と共に行い、利用者の好みを聞いての献立作成など食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示のもと、一人一人の健康状態に合わせて食事を提供している。水分についてもきちんと把握してケース記録に記入している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に口腔ケアの重要性を説明して理解頂き、口腔ケアを起床時と食後に実施している。歯ブラシは所定に場所があり義歯は夕食後、洗浄液につけて衛生管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。失敗しても傷つけない様周りに気遣い、プライドを傷付けないように支援する。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、一人ひとりに応じたトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物で便秘解消を試みている。水分補給に努めている。体操や室内ウォーキング、散歩等出来るだけ体を動かす様にし、自然排便に心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に希望を聞き生活リズムに合わせて入浴して頂く。バイタルチェックを行い体調管理する。又入浴後の体調も様子観察する。一人で入浴を望まれる方にも配慮し、声かけ、見守り介助しながら入浴を楽しんで頂く。拒否ある場合は無理強いはいしない。	冬期は2日に1回で他の季節は毎日の入浴となっている。14時から16時半の時間帯で一人ひとりの希望や習慣に合わせた支援をしている。必要に応じてシャワー浴、清拭の対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調、年齢等一人一人の睡眠状態を把握し日中の活動量にて配慮する。疲労されていると感じる時は昼寝や休憩をとって頂く様支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬剤提供情報書をファイリングし一人一人の薬、目的用法、用量、副作用について理解している。飲み忘れや誤薬を防ぐため投薬カレンダーにて管理している。受診時には血圧や服薬状況等必要な情報を報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を確認することで個々の潜在している記憶、出来る力を生かす場所作りをし自分らしく暮らして頂ける様支援している。	縫物、食事の準備や茶碗洗い、洗濯物たたみ、歌、ぬり絵、パズル、習字、読書など利用者の経験や知恵を発揮できるように、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には体調をチェックして1人ひとりにストレスが溜まらないよう、また気分転換を図るため短時間でも外に出る機会を作っている。希望されている場所へ出かけられるよう家族への声掛けも行っている。	日常的にひなたぼっこをしたり散歩をしている。利用者の希望で買い物に行ったり、レストランでの外食、ドライブ、季節ごとの花見、花火大会など家族と協力しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事などで買物をする時は横で見守りをして支払いをする等の支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話の使用は可能。手紙は職員の声かけにより、本人が書きたい時は書いていただき一緒にポストに出しに行くことを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には生活感や季節感が分かるよう利用者と一緒に四季の作品を作り飾っている。また、手作りカレンダー等も飾っている。	トイレ、浴室、玄関など利用者が使いやすくなっている。食卓周辺には、本棚、ソファ、テレビが置かれ、作品(習字)の展示があり、一人ひとりの居場所となっている。調理の音や匂いで生活感があり、生け花や飾り付けで季節感を感じられ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で自席や自室が決まっており、一人の時間も大切にして、利用者同士が落ち着いた生活が送れるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた馴染みの物や使い慣れた物を使用し安心して生活できるように工夫している。	衣装ケース、写真、椅子など使い慣れた家具や好みのものを持ち込んで、その人らしく居心地のよい部屋づくりを工夫している。各部屋から海の風景を眺められる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行出来るようにホーム内の床はフローリングにしてある。一人ひとりの出来る力を引き出す為その方に合わせた声かけや見守りを工夫している。又歩行時には見守りと介助を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あかつきの里

作成日： 平成 23年 7月 23日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	応急手当や初期対応の定期的訓練は実施されていない。	全ての職員が事故防止に取り組むとともに実践力を身につける。	月1回のスタッフ会議時に定期的に訓練をしていく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。